

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

よきついでなりとて、叡山の堂社を拜みめぐりたまひしに、山法師どもこれを聞きて、「一休は<sup>1</sup>隠れなき能書なり。何にても書きてもらはん」とて、手に手に硯紙を持ち来たりて頼みしかば、一休思しけるは、「<sup>\*</sup>聖道の当て字とかや、<sup>2</sup>定めて文盲なる法師どもならむ。何がな書きてとらせん」と、いかにも読みがたき一句をさらさらと一筆に書きちらして、<sup>A</sup>つかはされければ、一山の僧寄り集まり、「かかる能書の名僧この山に来る事は、後の世までも宝物ともなるべき語を書かせおくべし」とて、その中の老僧のいへ<sup>b</sup>るは、「先より各々書きてもらひけるは一字も読めず。また語もあまりに短くて、この山の宝とはなりがたし。いかにも大文字を長々と<sup>B</sup>書きてたべ。

5

読みがたきは、ありても<sup>せん</sup>詮なし。いかにも読みやすき事を頼み奉る」と、<sup>3</sup>一山ともに望まれければ、一休のたまひけるは、「紙筆は候ふか」。中々。古へ<sup>\*</sup>大師の<sup>C</sup>あそばしける七八尺の大筆あり。紙は何ほどとも<sup>D</sup>継ぎ申すべし」と申されければ、「さらば紙を<sup>D</sup>継がせたまへ。御望みの通り長々と大文字を書きて、よく読めるを<sup>E</sup>仕るべし。

急ぎ紙を継がせたまへ」とありしかば、何ほどなりと紙は御望み次第とて、<sup>\*</sup>ひたもの長く<sup>E</sup>継ぐほどに、叡山の金

10

\* 聖道の当て字 || 真言や天台宗の無知を嘲る諺。

\* 大師 || 最澄のこと。

\* ひたもの || ひたすら。

\* 戸津坂本 || 比叡山東麓の地名。

\* いつさん || いちもくさんに。

堂の前より<sup>\*</sup>戸津坂本の人家まで、長々しくも紙を継ぎければ、「さらば筆を染めん」とて、墨たつぷりと含ませて、べたと紙へ書きつけて、<sup>\*</sup>いつさん駆けて不動坂まで一筋に引か<sup>c</sup>れて、「読めるか、法師たち」とのたまへば、「いや何とも読めず」といふ。また墨を継ぎて、不動坂より坂本まで一筋に走り引きに引き、「読めるか読めるか」とをめきたまへば、一山の法師たち肝をつぶし、「いや何とも読めず」といへば、「これは（いろは）の、浅きのくだりにある **X** の字なり。長々と書いて読めやすきはこれなり」とのたまへば、皆人興をさまし、「さても聞き及びしよりおどけ人かな」と一度にとつと笑ひて興じけるとなり。

（「一休ばなし」）

問1 二重傍線部 a ～ c の助動詞の、文法的意味と終止形をそれぞれ記せ。

問2 波線部 A ～ E を敬語に注意しつつ、それぞれ主語を補って現代語訳せよ。

問3 傍線部 1 ～ 3 の解釈として最適なものを、それぞれ次の (ア) ～ (エ) から選べ。

- 1 (ア) 隠遁した画家だ (イ) 在野の知識人だ (ウ) 有名な書道家だ (エ) 人知れぬ名僧だ
- 2 (ア) 元々目のよく見えない法師たちもいるのだろう。 (イ) 中には文字に飢えた法師たちもいるのだろう。  
(ウ) おそらく勉強熱心な法師たちもいるはずだ。 (エ) きっと無学な法師たちなのだろう。
- 3 (ア) 延暦寺の僧全てが (イ) 天台・真言僧全てが (ウ) 天台宗の僧全てが (エ) 国内の僧全てが

問4 空欄

X

に入れるのに最適な文字一文字を記せ。

---